

注目となる伯國珈琲の前途

生産過剰の不安除く 新市場の開發が急務

況米珈琲局總裁、商業協會で強調

【マニラ・オリゾンテナ九日アブレス】況米珈琲局總裁オフィロ・アンドラーラ市は新市場の商業協會で「世界市場に於ける伯國珈琲の地位はまだ良くなるだらう。然し今から諸外国で競争の宣傳をしないとすつといふ理由は三倍といふ高値であつた、一九四八年に伯國が輸出した量は一千七百五十萬袋といふ近年にないレコード破りであつた。

然しながらナンバウロ、主なる目的である今珈琲が益々擴大して国内生産が増加しつゝあるので、どうしても新市場を開拓するため大いに貢献する必要がある。これは況米珈琲局(様にならう)

第三次吉田内閣

保守聯立成る

新閣の誕ぶれ決る

【東京】連立か、單獨かで議論されたのは十三日夜吉田、大藏會議の結果武歩み寄り、改守聯立の組閣方針

は去る十六日午前大蔵大臣、高瀬莊太郎が再確認されたの、直ちに議論の手續を終り同午後三時原農業省長、松平金田閣議官出席の如くである。

◆總理大臣外務大臣吉田茂(七十二才、民自公、東大政治科卒、元駐英大使)

◆厚生大臣林謙次(高知縣、六十才、元内務省官員、元内閣府官房審議官)

◆農林大臣林謙次(高知縣、六十才、元内閣府官房審議官)

◆文部大臣高瀬莊太郎(長元大蔵次官)

◆厚生大臣林謙次(高知縣、六十才、元内閣府官房審議官)

(四十七才、民自公、東大政治科卒、元内閣府官房審議官)

(五十三才、民自公、東大政治科卒、元内閣府官房審議官)

(五十九才、民自公、東大政治科卒、元内閣府官房審議官)

(六十二才、民自公、東大政治科卒、元内閣府官房審議官)

(六十二才、民自公、東大

NOTICIAS DO BRASIL

Diretor-Interino e Proprietario: SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

N.º 2.826

Redação, Administração e Oficina: Rua Caramuru, 63 — Caixa Postal, 3148 — São Paulo

SÃO PAULO, Quarta-feira 23 DE FEVEREIRO DE 1949

ANO XXXII

Circula às Segundas, Quartas e Sextas

出立の朝、七時に飯を食つて、いると、榮吉が道から私を呼んだ。黒紋付の羽織を着ていた。女紳は豆洋燈で説明を頃んでいた。直ぐに出て宿へ歸つた。慈しめるにひじを突いていつまでも夜の町を眺めていた。暗い町だったから見えない。私は部屋へ上つて来ていった。

「皆もお通りしたのです。昨夜も寝て起きられないで失禮させていたましまして、冬はお待ちしてくれば、可哀想だと思いました」

「朝は秋の朝風が冷たかった

Fundado em 1917



山中 説法 (36)

山中 説法 (36)